

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	bonキッズ北堀江		
○保護者評価実施期間	令和6年 7月 1日		～ 令和6年 8月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	67	(回答者数) 62
○従業者評価実施期間	令和6年 8月 1日		～ 令和6年 8月 3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援の内容、支援者負担等について丁寧な説明をしているところ。	保護者の障がいへの理解度に合わせてなるべくわかりやすく説明を行っています。また視覚支援を使って説明しています。ルビ版や拡大版、動画などを使って重要事項の説明も行っております。	管理者だけでなくすべてのスタッフに丁寧な説明がいきわたるように職員間の周知・理解に努めてまいります。
2	子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされている。	療育を見学いただいている専門療育の保護者には保護者ノートをつけていただき、療育スタッフとコミュニケーションを取っています。またLINEやInstagramなどを活用して保護者に情報がいきわたるように工夫しております。	保護者が相談しやすい方法、情報を得やすい方法を時代背景に合わせて工夫を続けていくこと。例えばX(旧ツイッター)などを利用する、など保護者の利便性に合わせたコミュニケーションツールを探っていく必要あると考えています。
3	子どもたちが通所を楽しみにしてくれているところ。	保護者の希望に対してすぐに実施するのではなくアセスメントをしっかりと行い、いかにスモールステップで保護者の希望に沿うようにスモールステップを踏めるかの作戦を丁寧に立てているところ。スモールステップを踏んでもらうことで子どもが無理なく目標に近づく成功体験を積めるかというところを大事にしています。	支援の目標を子どもの認知スキルや興味関心に合わせること・スモールステップをどう踏むと子どもに負担なくより楽しく学び続けることができるのかを保護者や新人スタッフにも理解して計画実施していけるかを教育プログラムに組み込んでいきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がないこと。	専門療育という事業所の事業から考えると1年の療育プログラムの中で地域の子どものと関わるのは難しいと考える。	利用児童が地域の子どものと関わるのは難しいが、療育の空き時間に地域の子どもの発達相談窓口として体験利用してもらうなどの交流はできるかもしれない。今後は地域の発達の気になる子どもの相談や遊び場の開放として地域に開かれた事業所をめざせると考えている。
2	父母の会の活動支援や、保護者回答の開催により保護者同士の連携が支援されていない。	コロナ禍で保護者の交流会がなくなっていたため。	昨年初より保護者交流会を再開している。年に3回の開催を目指していて、交流を望む保護者のニーズに応じていきたい。
3	定期的に会報やホームページ等で活動概要や行事予定を発信していない。	前年度まではあまり更新されないホームページしか活動の概要をお知らせすることができていませんでした。	アンケート結果を受けてInstagramやLINEを活用して活動概要をは発信しております。